

新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた活動例 競技名 (アーチェリー)

1 中央競技団体のガイドラインにおける主な感染防止対策

出典 公益法人 全日本アーチェリー連盟 『全日本アーチェリー連盟主催のイベント開催における感染防止策について version2』

- ②入場の際して全員検温を行い、会場内にアルコール消毒を設置する。
- ⑤選手も支障のない範囲でマスクの装着をお願いする。矢取・控え所での待機時でのお願いとする。
- ⑦会場内での会話をできるだけ避け、大声はご遠慮するよう要請する。
- ⑧選手間のスペースを1m以上確保する。例:6mピッチに2名から6名。
- ⑨控え場所での間隔は1m以上空間を確保するようお願いする。
- ⑪握手やハイタッチ・グータッチなどの行為を行わないこと。
- ⑫スコアカード類等の回収は直接選手より受け取らない。回収ボックス等を準備して対応する。
- ⑬タオルの共用はしない。
- ⑭飲料は自分専用のもを飲み、回し飲みはしない。
- ⑮室内で実施する場合には、換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行うこと。
- ⑯終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。

2 感染防止対策を踏まえた活動例

(1) 競技における感染リスクが高いと思われる活動		感染リスクが高いと思われる理由
①	シューティング中	アーチェリーは、道具の共有は無く個人所有の道具を使用し、他人の道具に触れることはマナーとして禁じられている。親切心で他人の矢を抜いてやることはあったが、それも今は禁じられている。また、シューティング以外の場面では必ずマスク着用となっているが、シューティング中は基本的に無言なので、その際の感染リスクも低いと言える。しかし、技術指導を受ける際は会話をし、スコアを付ける際は同様のメンバーがローテーションしながらスコアカードに記入するので、強いて言えばその時にリスクが高くなると考えられる。



(2) 感染防止対策を踏まえた活動		(3) 感染リスクが高く、控えた方がよい活動例	
①	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者は必ずマスクを着用する。 ・指導を受ける際は、大きな声を出さない。 ・スコアボードやペンの共有をしない。 	①	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の道具に触れること ・スコアを記入する際に、スコアボードやペンを使い回すこと。